

平成22年度第2回 産業技術実用化開発助成事業 採択課題一覧

	事業者名	開始期間	事業名	事業概要
1	廣瀬製紙株式会社	H23.3～	新型リチウムイオン2次電池用ナノファイバーセパレータの開発	ファイバーを用いた新型リチウムイオン2次電池用セパレータの開発を行う。この開発により、安全性の高い高性能セパレータによる高性能蓄電池の具現化が可能となる。
2	サンユレック株式会社	H23.3～	白色LED用ポッティング樹脂とその応用LEDパッケージの開発	平面配列したLEDチップを、粘度調整された1液性シリコン樹脂を用いて、印刷やディスペンスといったポッティング工法でレンズ状に封止することにより、平面形状のLED照明パッケージを低コストで製作する技術開発を行う。そのための新しいシリコン樹脂の開発と設備比較を含め、パッケージ量産化技術を確立する。
3	常陽機械株式会社	H23.3～	半導体ワイヤボンディング非接触非破壊自動検査装置の実用化開発	ICやLEDの素子とリード間を接続するワイヤボンディングの良否判定を瞬時に検査することを実現するために、レーザー加熱時の温度変移の違いを利用した非接触・非破壊のワイヤボンディングテストの開発を実施する。この開発により、LED照明・省エネ家電等の信頼性向上が図れ、グリーン・イノベーション推進に大いに貢献する事ができる。
4	日本山村硝子株式会社	H23.3～	SiCパワーモジュール用耐熱封止材の研究開発	エネルギー損失を90%以上低減可能なSiCパワーモジュールは、次世代の省エネ技術として注目されている。この技術に不可欠となる、高温下で連続使用が可能な封止材の実現に向け、ハイブリッド材料技術を基盤とした耐熱材の研究開発を実施する。この開発により、電力消費量が削減され低炭素社会を実現することができる。
5	エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社	H23.3～	リチウムイオン電池電極中金属異物のインライン検出技術の実用化	リチウムイオン二次電池を構成している電極・セパレータに含まれる金属異物をインラインで検出するために、X線を利用した高速検出技術を開発する。本技術を利用した全数検査により安全性・寿命を低下させる金属異物を排除し、電気自動車やスマートグリッドでのリチウムイオン二次電池の普及を促進する。
6	株式会社光子発生技術研究所	H23.3～	製造ラインに設置可能な小型・軽量・低コストEB滅菌・殺菌装置の開発	製造ライン設置および可搬式での土壌・汚水等の滅菌が可能な小型滅菌・殺菌装置を実現するために、独自の電子加速器マイクロロン技術を利用した大パワー・小型・軽量・低コストのEB滅菌・殺菌装置を開発する。この開発により、医療機器の滅菌、環境汚染の除去、食品の安全を確保等の安全安心な社会づくりへの貢献が可能となる。
7	株式会社アルバック	H23.3～	結晶系太陽電池用シリコン精製装置の開発	結晶系太陽電池の普及拡大を実現するために、結晶系太陽電池基板の原材料に使用するシリコンを精製する装置の開発を実施する。この開発により、安価に原材料シリコンを製造できるようになる。
8	東洋炭素株式会社	H23.3～	超高温耐熱TaCを用いた自己循環型SiCプロセス環境の実用化	次世代半導体材料であるSiCのデバイス展開に向け、従来技術のボトルネックであった基板高温処理工程における熱損傷による品質劣化及びその対策のために行われる加工処理によるプロセス複雑化を解決する。浸炭TaC傾斜機能部材からなる準閉鎖空間を用いて革新的高温気相環境創生技術の実用化を目的とする。
9	アイサンテクノロジー株式会社	H23.3～	高精度3次元仮想空間を高速に再現するモデリングソフトウェアの開発と販売	レーザスキャナ等の高精度3次元計測技術の普及は著しいが、膨大なデータ量や多数の構成物が混在したデータ解析の複雑さの為、高精度な仮想空間生成には膨大な作業時間と熟練を要する。本事業は、3次元計測技術で得られた三次元点群座標の精度を維持しながら高速に、必要な仮想空間を再現するソフトウェアの開発を行う。
10	株式会社セウテック	H23.3～	複数周波数を用いた電気探査による古洞・地下水脈等の3次元可視化技術の実用化	水脈の位置や規模を高精度に測定する目的のために、複数周波数を用いて探査し3次元可視化画像にて、正確な地圏情報取得が可能となる探査解析技術の開発を実施する。この技術開発により、地圏における水や鉱物資源の掘削等、資源エネルギー問題を解決する重要な基盤技術として期待できる。
11	株式会社サイベックコーポレーション	H23.3～	二次電池用蓋の圧力開放弁一体成形加工による低コスト化研究開発	電気自動車の動力源であるリチウムイオン電池には安全弁が装着されている。この安全弁は蓋部と溶接するためコスト高の要因となっている。本研究では部品の低コスト化を実現するために、超精密板鍛造技術で蓋と安全弁を一体成形する開発を実施する。この開発により部品コストが下がり電気自動車の低コスト化へ貢献できることになる。

12	佐々木化学 薬品株式会 社	H23.3～	表面処理剤の新規 の再生方法とその製 造装置に関する研 究開発	半導体・電気電子・自動車・機械装置・塗装表面加工分野などで、広く使 用されている表面処理剤のリサイクル化を実現する為に、使用済み表面 処理剤(廃液)中から金属成分を分離除去し、薬液をリサイクルする研究 開発を実施する。この社会的意義の高い研究開発によって、薬液リサイク ルの実用化へと前進することになる。
----	---------------------	--------	--	--